2022年５月21日発行

大町山岳博物館友の会　第　191　号

ゆきつばき通信

行事のご案内（友の会主催事業）

自然観察会　佐野坂丘陵と親海湿原の成り立ちを歩く

山岳博物館では企画展「仁科三湖の成り立ち」を７月23日から開催しますが、それに先立ち、青木湖の誕生に関わる佐野坂丘陵と親海（およみ）湿原の成り立ちについて、博物館太田専門員より地質的な新知見を含めてご案内いただきます。湿原や野山の植物も楽しめる頃と思います。

《期　　日》　６月12日（日）　午前10時00分～午後３時00分
大雨中止（2-3日前に実施の判断をします）
《場　　所》　佐野坂丘陵周辺　午前午後各２時間程度の徒歩を予定
《集　　合》　国道148号脇の佐野坂スキー場駐車場　10時00分集合
《対　　象》　友の会会員　小学校高学年～大人　（会員知人同伴可）
《募集人員》　20名（定員になり次第締切）
《講　　師》　太田勝一専門員
《参 加 費》　無料
《持 ち 物》　雨具　帽子　筆記具　昼食　飲み物　レジャーシート　ある方は、ルーペ、双眼鏡等の観察用具
観察記録用のＡ４バインダーを現地でお渡ししますので、ショルダーバックがあると便利です。足回りはトレッキング装備で。適宜マスクを着用してください。
《申し込み》　５月27日～６月５日まで
電話・FAXまたは直接、友の会事務局へ　（Tel/Fax0261-23-6334）
《当日連絡》　090-1217-9197（丸山卓哉）

※参考資料　「青木湖と佐野坂丘陵の成り立ち（予報）」　太田勝一
大町山岳博物館紀要　第６巻　（2021）

報　告

令和４年度山博友の会総会

《期　日》　４月 24 日（日）　午後３時 30 分　～　４時 30 分
《場　所》　山岳博物館講堂
《参加者》　30 名

今年度の友の会の総会が去る４月 24 日に行われました。阿久根義宏さんの議事進行により、提案事案はすべて承認されました。

【会費の改正について】

来年、令和５年度より個人会員 2000 円、ファミリー会員 3000 円とします。現在、繰越金が多くなっていることと、新しい会員が入会しやすくするためです。

これとは別に、今年 10 月まで、体験入会として年会費を納入しなくても友の会事業に参加できる制度も承認されました（ただし、博物館への無料入館等はできません）。この機会にお知り合いを友の会にお誘いください。

令和４年度山博友の会　総会記念講演会　共催　大町山岳博物館
「高山のお花畑が教えてくれる生き物と生き物の繋がり」

石井　博 先生

《期　日》　４月 24 日（日）　午後１時 00 分　～　３時 10 分
《場　所》　山岳博物館　講堂
《参加者》　30 名

“高山のお花畑が教えてくれる生き物と生き物の繋がり”を聴いて

丸山優子

石井先生はいかにも優しそうな風貌で、学生にも人気がありそうな方です。今回のお話の主役は“マルハナバチ”です。牧草に覆われた欧米では最もポピュラーな昆虫で、誰でも知っている人気者だそうです。先生は高山植物とマルハナバチの関係を広く深く研究され、私たちにわかりやすくお話してくださいました。言いたいことがいっぱいあるという感じで先生の情熱が伝わってきました。

“生き物は関わり合いながら生きている。”まず先生はそうおっしゃった。

植物は地球上に 20～40 万種あるが、その受粉を風に１割、花粉を運ぶ送粉者に９割が頼っている。スギ、イネなど群落を作るものでは風が有効な手段だが、多様な植物が混じっている場所では虫などの動物でないと効率的に上手く受粉しない。

石井先生は送粉生態学（花粉を運ぶ生き物）を研究されており、高山植物ではその送粉者の 99%がハチ、ハエ・アブ、チョウによると観察の結果推定された（鳥や哺乳類がごくわずかにいるらしい）。

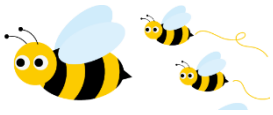
先生は富山大学という場所がら、立山という素晴らしいフィールドに目をつけられた。“高山植物”は送粉生態学を研究するのに最適な条件を持っている。それは①多くの種類の虫媒花が狭い範囲に密に生育、②人為的攪乱の影響を受けにくい、③背の高い植物がない、ということらしい。高山植物を訪れる虫を根気よく観察するという研究を続けられている。

マルハナバチは虫の中でも口吻が長く、学習能力や色覚能力に優れた送粉者だ。ハエ・アブ（ハエ目）は白や黄色で単純なつくりの花を訪れて受粉に貢献するが、マルハナバチは青や赤など花の色も見分け、さらに筒状の花など複雑な構造の花や下向きの花にも訪れ、たくさんの蜜や花粉の報酬を得ることができる。個人的（個虫的？）に好き嫌いがあるらしく、その選択的訪花が植物にとって好都合のようだ。同じ種類の花に何度も通うということだ。一緒に生まれた兄弟でも好みは違うらしい（笑）。この好みはハエ・アブにもあるらしい。

先生はヒトからあまり目を向けられない地味な生き物も重要な役割を果たしているので忘れないでほしいと言っておられた。ハエ目が多種多様であることで高山植物の共存を支えていることを付け加えられた。実際、海外で研究され、ニュージーランドなどではハナバチがいなくてハエ・アブが主な送粉者であることを突き止めた。

さらにモンゴル、日本の高山、スウェーデン、ニュージーランドの比較においてもハナバチが優先する地域、ハエ目が優先する地域で高山植物の共通点が見られることが分かった。日本、モンゴルは花の色も種類も多い。つまり送粉者も多様だ。これはイコールなのだ。

その送粉群集（たくさんの送粉者）の組成に応じて植物群集も多様になり、美しいお花畑の景観が作られることを知った。今度、山に行った時には、この花はマルハナバチが訪れるかも、この花はハエ、アブ？と予想して、ちょっと立ち止まってどんな虫がくるか観察してみようと思った。



【ご紹介】　石井先生ご著書

花と昆虫のしたたかで素敵な関係　－受粉にまつわる生態学－　ベレ出版　(2020/3/11)

春の観察会　居　谷　里　湿　原

《期　日》　5 月 8 日（日）　午前 7 時　～　12 時 30 分
《場　所》　大町市　居谷里（いやり）湿原（長野県天然記念物）
《参加者》　24 名（含講師役員）

友の会としては久しぶりの居谷里湿原での観察会を行いました。藤田学芸員、長澤顧問を講師に、また、花めぐり紀行サークルの皆さんをインストラクターに、参加者同士も講師となって市民科学的な観察会となりました。

藤田学芸員からは野鳥を中心に、地元である長沢顧問からは居谷里やその周辺の過去からの状況についてお話いただきました。また、ボランティアメンバーはあらかじめ文化財センターの関学芸員から居谷里湿原の経年変化や保全状況などを学びました。以下、植物担当からの報告です。

【植物】

木本、草木の発芽が進み、新緑の中で観察会を実施しました。以下、観察会で確認した主な植物です。

シダ植物

スギナ、ヤマドリゼンマイ、ヒカゲノカズラ、マンネンスギ、他

被子植物（木本）

サワラ、アカマツ、コナラ、ハイイヌツゲ、ヤマハンノキ、ハンノキ、イヌコウリヤナギ、バッコヤナギ、レンゲツツジ、ノリウツギ、ノイバラ、ズミ（開花）、イソノキ、カラコギカエデ、ヤマウルシ、ホオノキ、カスミザクラ（開花）、ウワズミザクラ（開花）、ナツハゼ、ミヤマガマズミ（開花）、ミヤマウメモドキ、サワラ、ハナノキ、リョウブ、クロモジの仲間（開花）、ウリカエデ（開花）、ウリハダカエデ、ヤマツツジ（開花）、レンゲツツジ、ユキグニミツバツツジ（開花）、ヒノキ・カラマツ…植林、他

被子植物（草本）

ウスバサイシン（開花）、ミズバショウ（開花）、リュウキンカ（開花）、ザゼンソウ（終花）、カサスゲ（開花）、キクザキイチゲ（開花）、チシオスミレ（開花）、タチツボスミレ（開花）、ヒナスミレ（開花）、※開花中のスミレ数種類、※カヤツリグサ科の仲間、タガネソウ、ドクゼリ、サワオグルマ、アザミの仲間、アカバナ、カキツバタ、ヒメシロネ、コバギボウシ、クサレダマ、コオニユリ、ヨシ、チゴユリ（開花）、タネツケバナの仲間、ノミノツヅリ（開花）、ワダソウ（開花）、

ネコノメソウ（開花）、ミツバツチグリ（開花）、キンポウゲ科の仲間、サトイモ科の仲間、ツルリンドウ、他

※平成 23 年度企画展「くさばなの一生」より大北地域の湿原・松田行雄氏執筆の解説を参考にさせて頂きました。

平成 19 年頃から「湿地の植物研究会」「花めぐり紀行」のサークルで湿原に通ってきました。湿地の植物（ミズバショウ、リュウキンカ，サワオグルマ、カキツバタ、コオニユリ、クサレダマ、サワギキョウ、エゾミソハギ，ミズオトギリ、アカバナ）の開花期・種子散布期を中心に観察を行ってきました。ここ数年、コロナ感染症予防のために活動が停止されていましたので、久ぶりの観察会となりました。流水の変化のためか、ミズバショウやリュウキンカの個体数が減り、サワラ林前の桟橋周辺に白く咲くミツガシワの姿が確認出来ませんでした。湿原の環境の変化に伴い、植物の生育状況も変わっていました。

今回の観察会を通して、被子植物、特にシダ類、コケ類、イネ科、カヤツリグサ科等の理解に欠けていることを痛感しました。湿原の自然観察会は、四季を通して、今後も継続していく必要を強く感じました。　　（有川美保子）

【出現鳥】

アオゲラ、イカル、ウグイス、エナガ、オオルリ、カラス、キビタキ、クロツグミ、コゲラ、コサメビタキ、サンショウクイ、シジュウカラ、センダイムシクイ、ツツドリ、トビ、ノジコ、ヒヨドリ、ホオジロ、ヤマガラ（19 種）

編集より・・・

今回の居谷里湿原、次の親海湿原とも、新旧の「北アルプス博物誌」も参照ください。居谷里（いやり）、親海（およみ）、地名の由来などご存知でしたらお知らせください。

居谷里湿原と居谷里登山

長澤　正彦

先日の観察会、居谷里湿原から爺ヶ岳・鹿島槍を望む里山は新緑と天候に恵まれ、楽しくご案内が出来ました。

居谷里湿原、私共この生活地域では「人との関わり」の深かった場所でありました。戦争末期から北安曇地域では松根油・泥炭（ピート）掘りなどが行われ、居谷里ではこの泥炭採掘跡が残っておりました。

また、園芸店への「苔」を切り取っている場所もあり、これらの採掘跡では「フナ・モロコ・アブラハヤ・ドジョウ・イモリ」等を、「木崎湖」でも釣れるのですが、ここが子供達には楽しみで、ドジョウが「受けビン」に真っ黒になるほど獲れ、得意顔で山を越えて帰りました。

このように居谷里から見る西の山（木崎湖側）は頂き近くまで林道が出来ていますが、元は昔からの山道を機械で広げたものです。

終戦後、この地域の里山（家から歩いて直ぐ入れる山）は、建材・燃料・炭焼き・下草刈り・枝打ちと多くの人が関わっていました。材木などの切り出しは「馬と馬そり」。そのため、山道のほとんどは「U字溝」で今も残っており、先日の登山でも通りましたが、現在も水源地の管理等で利用しています。

秋にはあちこちの里山中腹から「炭焼き」の煙が上がり、〇〇のじいちゃん「炭焼いてるから遊びに行こう」、特に「ヤマボウシ」、木崎の里から見える「白い花」を６月にはチェック、赤く熟れる実を待ち遠しく「山バナナ」と呼んで食べていました。採るにはあの山道をこう行ってなど、「食べ物がない、お菓子などない」、淋しくも楽しい子供の頃の里山での思い出です。

この地域では山から頂くものは、ウサギ・雉・山鳥・鳩・鴨類・小鳥類、ウサギは「首チョ」と言う罠を薪のタガ詰めの針金で作り、小学校に行く前に仕掛けを見に行きました。渡り鳥の季節では、みんな「ヒワ」を籠に入れ、「とりもち」で捕獲、今でも居谷里から見える頂きの松林にはかっこの良い「鳥とり松」、おとりで良く鳴かせる籠を吊し、渡りの小鳥を呼び寄せました。食糧難時代、子供達の遊び仕事であり、肉といえば「鯨か鶏」、小学校での当番飼育のウサギ、イナゴ獲り等、家での家畜で育ちました。現在の「ペット」の現況を見るとなんとも言えない世の中になりました。

山道を歩けば、先ずイチイの実・グミ・シブグミ・モミジイチゴ・クロイチゴ・スグリ・スイバ（塩漬けして）、コナシ（ズミ）・ハシバミ・ナツハゼ・アケビ・桑の実・ヤマブドウ・マツブサ・サルナシ等の木の実が目に入ります。競って食べたものです。特異なものに塩の実と称して「ヌルデ」の実を賞味、次に遊びに行き「漆」と間違え、当時「チンク油」で真っ白に化粧、シブグミを食べ過ぎひどい目に遭いました。

この山道は、各家での「薪で、いろり・竈・風呂」の焚きつけ、小学校へのストーブ「焚きつけ」を集めに行く生活道路で、樹木を伐採しない限り「俺の所の山だから採るな」等言う人もなく、小枝一本一本が人との生活に結びついており、里山はきれいで、見通しも良く歩きやすい状況を保ってきました。

次回は、行けなかった居谷里から大町側（南部）の里山を覗きませんか。

企画展　大きな水がめとしての北アルプス、そして水のまち大町

標記が 7 月 18 日まで行われている。4 月 24 日には鈴木館長によるミュージアムガイドが行われた。展示は自然科学から歴史・民俗、産業まで幅広く、ひと部屋で総合博物館を形成しているようである。

お話は、地球レベルの水の循環から。気体、液体、固体の三相を持つ地球の水は 4000 年かけて循環している。そのような地球の中で、日本は降水量が多く、標高が高い山は降水量が多くなり、さらに冬は雪が積もり、北アルプスは水に恵まれた地域となる。

大町の水は、古代より食事に、農業・漁業に、工業に、観光に活用されている。若一王子神社を北端とする大町の町並みには堰が作られ、水争いや水分（みくま）りなど、人々の営みが水にまつわる史跡として残されている。

大町市は SDGs の視点に立った「水が生まれる信濃大町」として、企業とともにこれからのまちづくりを標榜している。サントリーの水科学研究所によっても大町の地下水涵養が研究されている。

企画展は、泉小太郎などの地域の民話や木崎湖上のＶＲ画像を含め展示されている。

今後、ミュージアムガイドが 6 月 18 日(土)に、民話の語りの会（要申し込み）が 6 月 19 日(日)に行われる。

さんぱくゼミナール「水のまち大町を探る」

企画展の一環として、5 月 15 日午後、4 名の講師によるさんぱくゼミナールが行われた。

鈴木啓助山博館長からは、自然分野として世界規模の水の循環から積雪による豊富な水がめの北アルプスについて、里との気象の比較をしながら説明いただいた。

文化財センターの関悟志学芸員からは、縄文から現代までの川や湖の利用や苦労の様子をお話いただき、次回のゼミにつながる泉小太郎の民話に関する史跡等を紹介いただいた。

栗林勇太山博学芸員からは川の生き物、魚を通した大町と水の関わりについて、魚種の変化や日本海からの遡上、渓流の代表魚イワナなどについてお話いただいた。

文化財センターの関本景香学芸員からは、大町中心部の町並みに着目した水の関わりについて、王子神社付近からの水路堰の状況や街中の流れのいまむかしが説明された。

烏帽子の会

活 動 報 告

特別企画　1878（明治 11）年アーネスト・サトウの「日本旅行日記」の足跡をたどる

《「田沢温泉～池田」トレッキング》

《月日》3 月 26 日（土）～27 日（日）　　《参加者》13 名

この企画はこれに一際、思い入れのある有川先生、中山登志男さんにより長年暖められていた特別企画です。過去に何度も試行をしたり道の倒木の伐採をしたり資料を読み込んだりして深く醸成されて来たものです。

明治の英国公使館の外交官で通訳などを務め明治の日本においてなみいる歴史上の人物と面会交流して新生日本の側面を間近で見た人物、そのアーネスト サトウは日本に来る前から日本に大変な興味を持っていた人で、外交官としての多忙な仕事の傍ら各地を尋ねて旅をしていました。誰しもが知るかのウェストンやガウランドが日本の近代登山に至る偉大な足跡を残したように、記録からも窺えますが彼もその列に肩を並べるのでは無いだろうかと、そう密かに思います。そしてそのサトウの書いた日本旅行日記の足跡の中の私達に馴染みの有る地域の一部を実際に歩いて見るというものが今回の企画です。

今回の烏帽子の会特別企画の日程は 3 月 26 日 27 日、土日の 1 泊 2 日の旅となりました。コロナの影響も心配されましたがそれも何とか下火になり遂に予定通り 26 日朝、池田町役場に集合、それから今回はいつもと異なり登山口まで電車バスにて向かうことになりました。

天気はあいにくの下り模様、しかし気分を奮い立たせて池田八十二銀行前より 8:16 町営バスに乗り JR 明科駅へ。篠ノ井線で西条駅 9:05 下車しました。参加の面々の気合も十分です。駅前よりトレッキングを開始し、田沢温泉まで初日はひたすら車道を歩き田沢温泉「ますや旅館」を目指します。

有川先生の車でのサポートが有り、ワカン、スノーシュー、ザックなど運んで頂

き大変助かります。やがて東条を過ぎる頃、雨もしっかり降り始め、雨具を着ての行程も暫くぶりだなどと悦にいっていたのも束の間、やはり雨は否ですねー。

サトウはこのコースは田沢温泉からこの西条へ来ているので我々は初日は反対方向に向かうことになりますが、途中、サトウが日記に記した学校や目に止まった景色などを同じ様に体験しながらひたすら歩きました。青木トンネルを過ぎ十観山をトラバース気味に辿るところは残雪も多くて足下が大変で、昆虫館まで下る頃は流石にもう足に来ているかの様でした。だがここまで来れば後は田沢温泉が目の前、最後の気力と体力を振り絞ってようやく田沢温泉ますや旅館に草鞋を、いや靴を脱いだのでした。まさに古の旅人たちの苦労いかばかりかと感じた次第。今宵の宿、田沢温泉ますや旅館はサトウが泊まり宿の主人から萱野峠越えのルートを教えられ急遽予定を変更して池田を目指すことになったと日記に書いています。また後年、かの有名な島崎藤村が逗留し、その部屋がそのまま残されていることでも知られている宿で、古き良き時代をそこはかとなく漂わせていました。今回特別参加で友の会の宮嶋氏がご参加されましたが、宿の大女将と古くから御懇意にされていたそうです。我々一行も疲れを温泉で癒し、和やかに賑やかに、宴と一夜を過ごして明日に備えたのです。

そして、明けて 27 日、天候は曇り幾分風が強めにありましたが雨の心配は無く回復傾向。朝食を美味しくいただいて宿のバスとタクシーに分乗にて出発。昨日降り立った西条駅まで送って貰いました、これがなんと文明の利器、車のありがたさよ！あっという間に西条に到着。2 日目の旅の始まりです。今日は池田に向け萱野峠を越えて行く行程です。小仁熊、伊切、大側と辿って萱野峠を越えて行きます。だがかつての萱野峠口、現在は通行止めなので少し迂回しますが概ねサトウが辿ったルートを歩きます。昨日とは打って変わって道はあまり使われなくなって久しく、荒れていて藪を分け倒木をくぐり崖をよじ登りながらの道中です。だがサトウが辿った頃はまだこの山里にも沢山の営みがありこの道も生活道路として使われて

いたんだろうと想像しながらゆっくりと歩きました。

そしていよいよ萱野峠を過ぎ辛抱しながら登り切った岩洲公園辺りの稜線からは白く大きな北アルプスがぱっと目に入りいかにも堂々と眺められました。この景色に古の人々もどれほど勇気つけられた事でしょう。そして私たちも。そう感じながら、我々の旅もいよいよ終盤を迎えて岩洲公園の吾妻屋で昼食を取り 30 分休憩、まだまだ先が長いので、更にひたすら池田への道を目指しました。しかし下りとはいえ道は良くなく途中は滑り易い斜面や荒れた林道が足を悩まし、苦労をしながら池沢口そしてやっと犀川へ出たのです。犀川を渡る頃には足の疲れはもとより心も挫けそうに。しかしあと一踏ん張り、そして最後の風塩峠を残すのみとなったのでした。そしていよいよ風塩峠に登ると峠からは夕日に照らされた常念岳始め北アルプスが間近に出迎えてくれました。池田の町も輝いていて正にそうして私達の旅を祝福してくれているようでした。池田の役場到着は 17:50、それぞれの充実感と共に！２日でざっと 40 キロ 6 万歩にもなる歩数を歩き通した事になります。

改めて今回のこの企画にメンバー大勢の参加を頂き、大変ながらも楽しく有意義な山行になりました事を嬉しく思います。更に有川先生には献身的なサポート、感謝に耐えません。

また、残念ながらご参加叶わなかった皆さんもまた、このレポートで少しでも感じて^_^お裾分け出来ればと思います。次の山行で皆様、またお会いしましょう。

《コースタイム》

1 日目（3 月 26 日）

西条駅 9:20～東条学校跡 9:30～大欅 10:30（昼食:30）～皇太子休憩碑 12:20～青木峠 51 番カーブ 12:50～十観山登山口 14:15～昆虫資料館～田沢温泉ますや旅館 15:30

2 日目（3 月 27 日）
西条駅 9:20～小仁熊～釜坂遊歩道 9:50～大側 11:00～萱野峠 12:15～岩洲公園吾妻屋 13:00（昼食:30）～不動岩 13:50～水穴～池沢口 14:50～日野橋 15:30～風塩峠 16:50
～花見 17:05～池田町役場 17:50

阿久根　義宏

次回は、5 月 28 日（土）に、光城山～長峰山登山、総会を予定しています。なお、サークル人数が多くなったため、烏帽子の会の新規募集はしておりません。

サークル烏帽子の会へのお問い合わせは、事務局（電話：0261-23-6334）まで

ボランティアサークル

4 月 10 日に居谷里湿原の散策路を文化財センターの関さんのご案内により、歩道を整備しながら湿原保全の現況を見て回りました。昭和 46 年に長野県の天然記念物に指定された居谷里湿原は人の手が入らないと陸化、乾燥が進んで、最近もハンノキの幼木が群生してきています。ハンノキについては業者により伐採チップ化を順次進めていますが、友の会もフィールドとして関心を持って活用してほしいとお話がありました。

大型連休の付属園まつりでは、ライチョウガイド、クイズラリー受付および館内ガイドの活動を行いました。ニホンライチョウは 2 カ所の飼育舎で 4 羽見ることができ、連日 200 人を越える見学者がありました。

これからは、第三日曜日（原則）に博物館の環境整備（除草等）、発行物の封入・発送、各種事業の補助や受付などを行っていきます。

ボランティアサークルへのお問い合わせは、事務局（電話：0261-23-6334）まで

付属園まつりの様子など

◎山岳博物館のこれからの予定から

企画展「仁科三湖の成り立ち」　7 月 23 日（土）～10 月 16 日（日）
ミュージアムガイド　8 月 13 日（土）　9 月 10 日（土）　10:30～　14:30～
地学見学会　仁科三湖の成り立ち　9 月 4 日（日）　9:00～16:00
さんぱくゼミナール　青木湖が記録した気候変動　公文富士夫氏（信州大学名誉教授）　9 月 17 日（土）　13:30～15:30
親子地学教室　河原の石ころを見に行こう　9 月 25 日（日）　9:00～11:30
※ミュージアムガイド以外は申し込みが必要です。広報誌「山と博物館」をご覧いただくか、山岳博物館にお問合せ下さい。

大町自然探検隊　2023 年 3 月にかけて、大町市および周辺地域を対象として、野生動物の観察イベントを開催します。開催日の前月 1 日から受付を開始。
7/23(土) 水辺の生き物観察（農具川支流）
9/10(土) バードウォッチング（居谷里湿原）
9/24(土) バードウォッチング（白樺峠）　他

ゆきつばき通信編集室より

ゆきつばき通信 191 号をお届けします。総会及び総会記念講演会、居谷里湿原の観察会報告が主な内容になります。居谷里湿原は友の会が発足した頃はよく観察会を実施していましたが、今回は久しぶりでした。ご案内いただいた長澤顧問より、寄稿いただきました。今回ご案内の佐野坂・親海も、姫川源流の観察会から久しぶりになります。企画展がらみでもありますので、ぜひお申し込みください。

このところ、事業が定員に達しお申込みいただけずご迷惑をおかけしています。一方で、新しい顔ぶれに新鮮さを感じています。役員も限られ、限られた事業回数ですが、これからもよろしくお願いします。　（丸山卓哉）

年会費　ファミリー 4,000 円　個人 3,500 円　学生 2,000 円
会費振替口座番号　00550－2－24194　加入者名　山博友の会
博物館窓口では会費を扱いません。総会以外での納入は振込みでお願いします。
今年 10 月まで、体験入会として年会費を納入しなくても友の会事業に参加できます。お友達を会にお誘いください。

ゆきつばき通信　第 191 号
発行／大町山岳博物館友の会　2022 年 5 月 21 日
〒398-0002　長野県大町市大町 8056-1
大町山岳博物館内　山博友の会事務局　Tel/Fax 0261-23-6334

山博ページ　http://www.omachi-sanpaku.com/
友の会は、山博の情報発信のために山博ホームページの維持に協力しています